

会議名称	第 21 回国際委員会
日時	2024 年 3 月 25 日(月) 15:00-17:20
場所	Web 会議によるオンライン開催 (Zoom)
議事次第	(1) 開会 (2) 技術分科会における成果報告 -① 時空間同期 WG -② セキュリティ WG -③ 高周波WG (3) 諸外国における 6G の推進状況等にかかる定点観測報告 (欧・米・アジアの概観) (4) MWC2024 の出展等に係る報告 (5) 閉会
参加者数	約 110 名

以下、議事要旨 (敬称略)

(1) 開会 中尾彰宏国際委員会委員長よりご挨拶

国際委員会では国内に加え、特に活発に活動している海外プレーヤーをはじめとする国際動向の情報共有を行ってきた。最後の開催となる今回は、技術分科会WGの報告、定点観測の報告、MWCのレポートを行う。

国際連携活動の重要性を認識している。今後も B5G の実現に向けて情報共有を行っていただければよい。

(2) -① 時空間同期 WG

- 井戸 哲也 WG 長から 2023 年度時空間同期 WG の活動報告をいただいた。
- 発表の後、以下の質問があった。
- ・ META や Google も時刻同期の重要性を認知しているのご報告いただいたが、海外団体の中で、時刻同期の研究活動に先進的に取り組む団体はあるか。(中尾)
- ・ また、時刻同期の研究において国際的に日本はどの位置にいるのか。(中尾)
  - 一般に国家標準時は軽量標準の研究に属し、通信系と離れる。NICT は時刻同期と通信系の研究を進める稀有な団体である。PTP 等、確立された技術で一般に供給するところはあるが、モバイル通信に持ち込む団体は他にない。海外団体も重要性を認識し、今後、時刻同期と通信系の研究を進める海外団体も出てくるのではないか。(井戸)
  - 小型原子時計に関してはフランスや米国等では競争的資金が充てられており、軍事用途で研究が行われているため、機能強化が念頭に置かれている。しかし日本は民生用途のためコスト面を追求している。(井戸)

➤ ITU-R のポジショニングに関する報告の中でその重要性が再認識されたと言及があったが、今後競争が激化する可能性がある。機能面およびコスト面の追求という両方の路線で競争力を強化してほしい。(中尾)

- 低価格化の研究が進むが、いつ頃にどの程度の値段になると想定されるか。(コンソーシアム会員)
- また、民生向けの大量生産についての海外動向を伺いたい。(コンソーシアム会員)
  - 5年後に 10,000 円を目標にしている。(井戸)
  - いま低コスト化に向けて取り組んでいる海外団体はなく、知り得る限り日本のみが進めている取組みである。(井戸)

## (2) -② セキュリティ WG

- 三宅 優WG長から 2023 年度セキュリティ WG の活動報告をいただいた。

## (2) -③ 高周波WG

- 寶迫 巖 WG 長から 2023 年度高周波 WG の活動報告をいただいた。
- 発表の後、以下の質問があった。
- テラヘルツに対して関心は寄せられているが、特に一般の人々に用途が伝わっていない。一般向けの高周波用キットが提供できないか。(中尾)
  - NICT のネットワークのテストベッドに無線機器が繋がった状況で多くの方に様々なユースケースを試していただきたい。しかしテラヘルツの送受信機のタンクがかなり高価であるため、各方面にご協力いただけないか打診しているところである。このような試行は大変重要だと認識しているため、できるだけはやい時機に実現できるよう進めていきたい。(寶迫)
  - テラヘルツは研究テーマとして非常に関心が高い。手の届くテラヘルツのテストベッドを持つ機関は珍しく、価値が高い。テストベッドを活用すればユースケースの拡大にも繋がるかもしれない。(中尾)
  - みなさまからの声が高まることでリソースの確保が行いやすくなる。ご協力いただきたい。(寶迫)

## (3) 諸外国における 6G の推進状況等にかかる定点観測報告 (欧・米・アジアの概観)

- NTT データ経営研究所から、諸外国 (欧・米・アジア) における 6G の推進状況等にかかる定点観測の報告を行った。

## (4) MWC2024 の出展等に係る報告

- 一般財団法人マルチメディア振興センター (FMMC) ブリュッセル事務所 所長 仲田陽子様から、MWC2024 のトレンドについてご報告いただいた。
- 国立研究開発法人情報通信研究機構 (NICT) Beyond5G 研究開発ユニット Beyond5G デザインイニシアティブ イニシアティブ長 石津 健太郎様、星和電機株式会社 コンポーネントシステム事業部 企画部 営業開発課 課長補佐 吉岡 崇様、東京工業大学 科学技術創成研究院 助教 李 尚曄様、住友電気工業株式会社 情報ネットワーク研究開発センター 無線システム研究部 主幹/シニアスペシャリスト 船田 知之様から、MWC への出展についてご報告いただいた。

(5) 閉会 中尾彰宏国際委員会委員長よりご挨拶

国際委員会では 6G に向けた国際的な情報収集および情報共有、ならびに国内の研究開発の情報発信と周知に取り組んできた。今年度だけでも計 8 回の会合を開催し、様々な国や機関との連携を進める等、活発な活動を行ってきた。傘下に組織する 5 つの技術分科会は、Beyond5G/6G の実現に向けて、どれも非常に重要な技術要素であり、国際連携が重要な分野である。MoU は 4 機関 (6G Flagship、PAWR、Next G Alliance、6G IA) と締結し、その後 IAB を開催する等、Beyond5G に関する各国の推進動向に関する情報収集等を行ってきた。また、MWC でも本日ご報告いただいた日本企業には、日本の素晴らしい技術の情報発信等も行っていた。私自身も、MWC には足を運び、様々なベンダと意見交換を行った。実際に現地で情報収集を行った所感として、例えば、AI に注目が集まったカンファレンスであったことは、様々なメディアにおいて報じられていたが、その他にも、キャリア向けの基地局の低消費電力化に向けた競争も激しいように感じた。現地で情報収集を行うことができればベストではあるが、特に海外となると難しい側面も出てくる。国際委員会では、そういった課題を補完する形で、国際的な場で得た情報の共有を行う役割も担ってきた。

国際委員会は、設立当初よりグローバルファーストという目標を掲げており、標準化の推進に伴い、国際連携を見据えた戦略を立案していくにあたり、国際委員会の活動を通して基礎となる土台を作ることができたのではないかと考えている。

最後に、これまで参加いただいた皆様、ご協力いただいた皆様に感謝申し上げたい。

以上